美川佛壇協組　地域ブランド、自分で守る

組合以外の「美川仏壇」 本物なら〝太鼓判〟

白山市の美川佛壇協同組合は十九日までに、組合加盟店以外から購入した「美川仏壇」の真贋を判定した際に、鑑定書を発行することを決めた。不正販売や偽造品からの消費者保護を進めるのが狙いで、地域団体商標（地域ブランド）の認定を受けた「美川仏壇」の価値向上につなげる。

鑑定書を持つ北島理事長（左）と明正鑑定委員長＝白山市美川新町

信用維持へ 鑑定書を発行

組合は「偽物」対策として、合板やプラスチック、圧縮ボード、化学塗料の使用を禁じる独自の認定基準を設け、組合加盟店が製造、販売した仏壇への認定プレート取り付けのほか、抜き打ちの鑑定を行っている。

組合以外の販売店などから「美川仏壇」として購入した場合について、鑑定の希望があれば応じている。組合に加盟していなくても、基準に則した材料や技法を用いていれば「美川仏壇」と認める場合があり、昨年七月の鑑定委員会発足後、県内の八件で真贋を確かめた。

この結果、合板や化学塗料を使用するなど八件すべてが偽物と判明したが、結果を依頼者に伝えるのみだった。偽物を買った消費者が産地や品質など購入時の説明と異なる点を立証する手助けとして、鑑定書の発行を決めた。

鑑定書は、同組合内に設置された鑑定委員会によって発行される。複数の鑑定委員が依頼者のもとに赴き、木の材質、下地、塗り、金箔、蒔絵、金具、彫刻についてそれぞれ調べる。

組合には「美川仏壇」以外のブランドに対する鑑定依頼もあり、北島与八郎理事長や明正紀栄宣鑑定委員長は、「このままでは美川仏壇だけではなく、業界全体の信用が低下してしまう。鑑定書で、不正販売の抑止につなげたい」と話した。

留学生「自国の力に」

航空二高 モンゴル官僚が激励

モンゴル航空局の国際分野政策部経済分野担当官であるバヤスガランさん(四二)が十九日、輪島市の日本航空学園輪島校を見学した。同学園の日本航空第二高で学ぶモンゴル出身留学生のうち、ともに二年生のトルガ君(一六)、サランゴーさん(一六)、エンフジャルガルさん(一六)の三人が案内役を務め、母国の先輩に一層の勉学を約束した。

航空二高では現在、モンゴル出身の留学生三十数人が学んでいる。十二日に来日したバヤスガランさんは、能登空港を視察した後、梅沢慶臣学園長と浅川正人航空二高校長の歓迎を受け、主に整備士を養成する同学園の好調な就職状況などを聞いた。

「自分の国の先輩に学

バヤスガランさん(右)に学内を案内するモンゴルの留学生＝航空学園輪島校